

令和7年9月 本会議 議事録

【年 月 日】令和7年9月16日 【答弁番号】20-1-1、2

【質問件名】皿倉山イルミネーション事業について

【質 問 者】小金丸かずよし 議員（まるまる戸八会）

【作 成 課】総務市民局区政推進課

■小金丸かずよし 議員

皆様、こんにちは。まるまる戸畑と八幡会の小金丸かずよしでございます。皆様、そしてウェブ中継をご覧になられている皆様、本当にありがとうございます。

まずもって、8月に発生しました北部九州の豪雨被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

そして、今回においては、武内市長のリーダーシップのもと、市の危機管理室より災害概要についての小まめな情報提供をいただいたことに、市民の一人として、非常に安心を覚えました。市の執行部の皆様にも、感謝を申し上げます。

それでは、私の一般質問に移らせていただきます。議場に資料を添付しておりますので、それに合わせてご覧いただければと思います。

まず一つ目、皿倉山イルミネーション事業についてお伺いをいたします。本市は218年に、「日本新三大夜景都市」に初めて認定されて以降、2022年、2024年には続けてランキング1位で認定されるなど、夜景観光の取り組みを積極的に行っており、その取り組みは市内外から非常に高く評価をされているところです。

このうち、本市の夜景観光の最も魅力的な場所の1つである皿倉山では、「皿倉山にぎわいづくり推進協議会」による「皿倉山イルミネーション」が行われております。これは、平成21年度から始まり、今年で16回目を迎えるボランティアによる魅力発信事業で、皿倉山北側斜面9合目付近に、個性的なデザインのイルミネーションを設置していただいております。

このイルミネーションは、皿倉山の冬の風物詩として、新聞、テレビニュース、SNSなど、様々なメディアに取り上げられ、北九州市民に広く認知をされており、この取り組みへの期待は年々高まっていると感じております。

また、コロナ禍の2021年には、疫病を追い払おうとされる「あまびえ」のデザインや、市制60周年を迎えた2022年には、「60」の文字など、毎年工夫を凝らした

メッセージ性のあるデザインが施され、八幡東区尾倉のラウンドアバウトにある復興平和記念像付近からは、特にきれいに見上げることができます。

この事業を支えているのは、ボランティア団体の有志の皆様です。本市のホームページにおいても、危険な急斜面での作業や、毎年趣向を凝らしたデザインに対する感謝と敬意や、市民ボランティアによる継続的な取り組みとして、地域の魅力発信に貢献していることが明記されておりますが、ボランティアスタッフの実情としましては、作業をされるスタッフ不足を自社の社員の動員で賄うなど、厳しい時期を迎えているようです。

この事業を継続していくためには、私は、本市の観光プロモーションのひとつとして、本市の事業として位置づけることも検討する必要があると考えております。

そこで2点質問させていただきます。

1点目に、この皿倉山イルミネーションについての、本市の見解をお伺いいたします。

2点目に、市は八幡大空襲による戦没者の慰霊を行い、また八幡の平和のシンボルとして毎年8月8日とお盆の8月13日から15日に八幡を表す「八」の字で点灯する皿倉山の八文字焼を実施しております。

皿倉山イルミネーションが、本市の冬の風物詩としてこれからも継続していくため、事業予算、補助額の増額を含めた見直しや、八文字焼のように本市の事業として位置づけることなどを検討してはどうかと考えますが、見解をお伺いいたします。

■三浦隆宏 総務市民局長

私からは大項目の1番、皿倉山イルミネーション事業について、皿倉山イルミネーションについての見解と、これから継続していくため、本市の事業として位置づけることを検討してはどうかという2つの質問にまとめてお答えします。

北九州市は、皿倉山をはじめとしまして、若戸大橋、戸畑祇園大山笠、工場夜景クルーズなど、バリエーション豊かな夜景が評価され、「夜景観光コンベンション・ビューロー」が実施いたします「日本新三大夜景都市」に、令和4年、令和6年と連続して全国1位に認定されました。

皿倉山の山頂から望む大パノラマの夜景は、国内外の観光客から高く評価されており、北九州市を代表する夜の観光スポットとなっています。

近年、インバウンドも多く訪れ、ナイトタイムエコノミーの充実による宿泊者増や観光消費の拡大に寄与するなど、「稼ぐ観光」に欠かせない重要な観光資源となっています。

議員ご案内の皿倉山イルミネーションは、皿倉山の魅力づくりと賑わいづくりのため、平成 21 年から NPO 法人や民間団体で構成されます「皿倉山にぎわいづくり推進協議会」の有志の方を中心としたボランティアの皆様によって実施していただいております。

地域の皆様の熱意と創意工夫によりまして生まれ、現在は、冬の夜空を彩る風物詩として親しまれており、長年にわたる社会貢献活動に、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

本協議会には、八幡東区役所が構成員として参加しており、皿倉山山頂広場の除草や、市ホームページでの広報、報道機関への情報提供など、北九州市としてもこの取組を応援させていただいているところです。

他方、このイルミネーションの魅力は、市民の皆様の熱意とご尽力、自由な発想と独自の取組によって育まれてきたと考えておりまして、市が直接事業を実施するのではなく、地域の皆様の主体性を尊重しつつ、側面支援を中心に関わっていくことが、ふさわしいあり方ではないかと考えております。

そのため、北九州市としましては、今後とも、皿倉山イルミネーションに込められた「八幡のまちににぎわいを」という思いをしっかりと受け止め、地域の皆様が継続的に活動できるよう、環境整備や広報等の支援に努めてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

■小金丸かずよし 議員

皿倉山のイルミネーション事業について、ご答弁ありがとうございます。繰り返しになりますが、私自身、本事業はボランティアありきの事業で成り立っているという風に認識した上で質問をさせていただきました。

議場配布資料の 1 枚目に、ちょっと小さな写真がございましたけれども、電飾の設置場所は、皿倉山北側の 9 合目で非常に急斜面にありまして、毎年それに伴う草刈り、もちろん東区役所のほうで手配していただいておりますけれども、デザインに合わせた杭打ち作業を、これが非常に危険に面しているということです。

そして、LED の電球につきましては、毎年資材が高騰しているということで、今回 16 回目を迎えますけれども、16 年前と同じようにボランティアに頼っているという風に思います。

おそらく、予算と補助額の見直しや、これから北九州市からのそういった面での側面支援が必要になってくるのではないかと思います。

皿倉山は夜景がきれいということで、これは山頂から見下ろす夜景なんです。しかしながら、下から見上げる電飾もきれいというのは、他都市にはない魅力だと思います。

ぜひ私のご提案した観光プロモーションに入れ込んでいただければという風に思っております。おそらく今の時点では考えていないという風にご答弁があると思いますので、次の答弁、第2 質疑に移らせていただきます。